

週 報

日本基督教団 翠ヶ丘教会

since 1964

2026 年度年間聖句

「主は人の一步一步を定め
御旨にかなう道を備えてくださる。」
(詩編 37 編 23 節)



どなたにも開かれている定期集会

主日礼拝 毎日曜日 午前 10 時半
子どもの教会 毎日曜日 午前 9 時 ～10 時
祈 祷 会 各水曜日
○昼の聖書研究祈禱会
(第3・午後2時)
●夕の祈禱会
(第2、第4・午後7時)

牧 師 井 殿 準

〒 252-0312 相模原市南区相南 2-25-65
TEL. 042-742-1593
FAX. 042-742-1393
ホームページ: <http://www.midorigaoka.jp>
郵便振替口座 日本基督教団翠ヶ丘教会 本会計
00290-4-80707

3230 2026 年 10 月 11 日

礼 拝 式 順 序

(聖霊降臨節第 21 主日・「神学校日」)

司式者 井 殿 準
奏楽者 飯塚みどり

前 奏	奏 楽 者
招 詞 詩編 96 : 1 ~ 3	司 式 者
讃 美 歌 1 7 「聖なる主の美しさと」	一 同
聖 書 使徒言行録 5 : 2 7 ~ 4 2 (新 P. 222)	司 式 者
使徒信条 (9 3 - 4 - A)	一 同
祈 祷	司 式 者
讃 美 歌 1 3 7 「聖なる主の家で」(1~3節)	一 同
説 教 「諦めなくていい」	司 式 者
祈 祷	”
讃 美 歌 5 6 4 「イエスは委ねられる」	一 同
献 金	”
主の祈り (9 3 - 5 - A)	”
頌 栄 2 7 「父・子・聖霊の」	”
祝 祷	司 式 者
答 唱 4 0 - 6 「アーメン」	一 同
～「主の平和を」と、祈りを込めて隣席の方々と挨拶を交わしましょう～	
報 告	司 式 者
讃 美 歌 9 2 「主よ、わたしたちの主よ」	一 同

- ・当教会では讃美歌 21 と新共同訳聖書を使用しています。お持ちでない方は受付に常備されているものをご使用ください。
- ・立ち座りのご不自由な方はどうぞ着席のままお臨みください。
- ・FM電波による補聴器が用意されています。受付に常備してありますのでご利用ください。
- ・マスクの着用は個人の判断にお任せいたします。ご心配な方はマスクを着用してください。

先週の説教要旨

「注がれた恵みの雨」

(へブライ 6 : 4 ~ 1 2)

この手紙は、厳しい迫害を受けて危機にさらされていた教会の指導者に宛てて記されたものと言われている。手紙の著者が目の前にしていたのは、迫害の危機にさらされ、疲れ切っている教会の現実である。もはやはじめの活力は使い果たされ、教師の中には教会の集会を怠り、棄教寸前となっている者が現れ始めていたが (10 : 25)、著者にとって、その者たちの信仰の希望を再び燃え上がらせることが、緊急の課題であつたと思われる。そのような中で、著者は今日の聖書の御言葉において、信仰を保ち、「約束されたものを受け継ぐ人」となりなさいと訴えている。

7 節に「土地は、度々その上に降る雨を吸い込んで、……神の祝福を受けます」とある。地中海沿岸の地面は、冬の間にまとまって降る雨を精一杯吸収して乾燥する夏に備えるが、著者は、手紙の受取手に、あなたがたも「冬」の間に恵みを注がれ、厳しい「夏」を持ちこたえ、良い実りをもたらし、神の祝福に至るのに十分な備えができていのだと語る。

ここで著者は、棄教者が信仰に立ち帰ることはできず (6 節)、「呪われ、ついには焼かれてしまう」(8 節)と非常に厳しい言葉を告げているが、著者の願いは、裁きの恐怖をちらつかせて人々を従わせることなく、「あなたたちは神から注がれた恵みをたっぷり吸い込んで、今までよく迫害に耐えて来た。私はあなたたちが救われることを確信している。今あなたたちは大変な目に遭っているが、どうか最初の喜びを忘れずに、最後まで希望をもって歩んで行って欲しい」と励ますことであつたに違いない。

我々は神を悲しませることを繰り返してばかりいるが、神はそのような我々を救うために、御子を十字架に向かわせ、我々を救いにあずかる者としてくださった。我々にはそのような恵みの雨が注がれている。破れ多い我々は、これから先も失敗することが多々あろう。しかし、神は我々の為した小さな善い業を決してお忘れにならず (10 節)、我々を必ず天の御国に招いて、良いもので満たしてください。そのことを忘れずに、希望を胸に、喜びと感謝の内に歩んで行こう。